

八甲田山の火山活動解説資料

仙台管区気象台
地域火山監視・警報センター

＜噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）が継続＞
八甲田山では、本日（7日）八甲田山周辺を震源とする地震が増加しています。その他の観測データに変化はみられず、火山活動の活発化は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・地震や微動の発生状況（図1～3）

本日（7日）06時以降、八甲田山周辺で地震が増加し、14時までの回数は61回となっています。

震源は、大岳山頂の西約4km、深さ約1km付近で、北八甲田山体からは離れています。

八甲田山では、2018年4月10日に日回数22回を観測するなど、これまでも周辺で一時的な地震の増加がみられていますが、地震活動以外に火山活動の活発化は認められませんでした。

低周波地震及び火山性微動は観測されていません。

・噴気など表面現象の状況

監視カメラによる観測では、特段の変化は認められませんでした。

・地殻変動の状況

火山活動によると考えられる変化は認められません。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警戒等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び青森県のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。

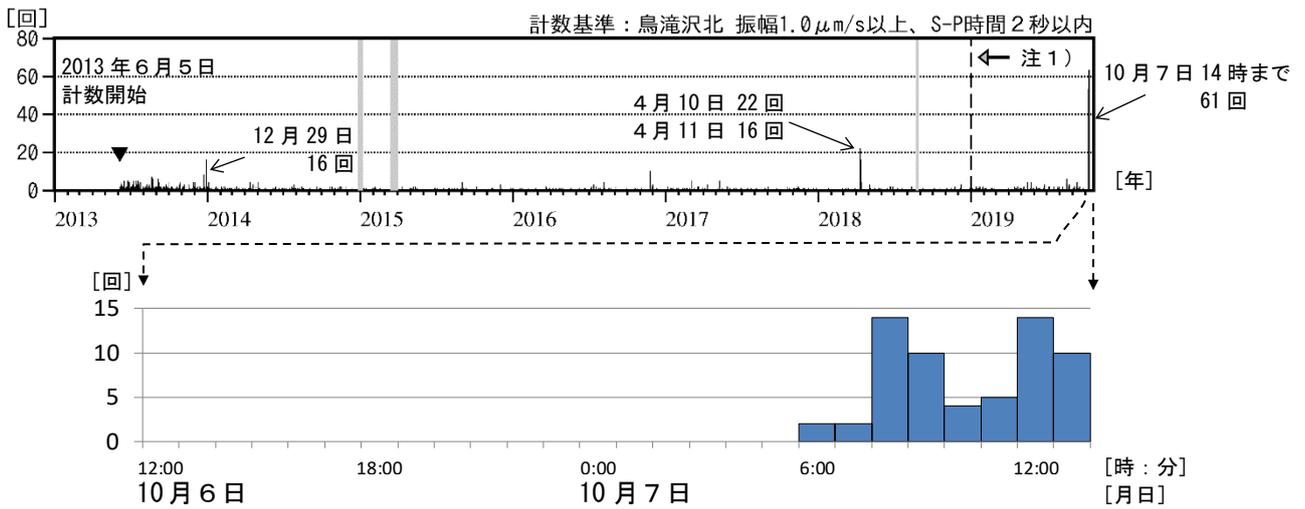
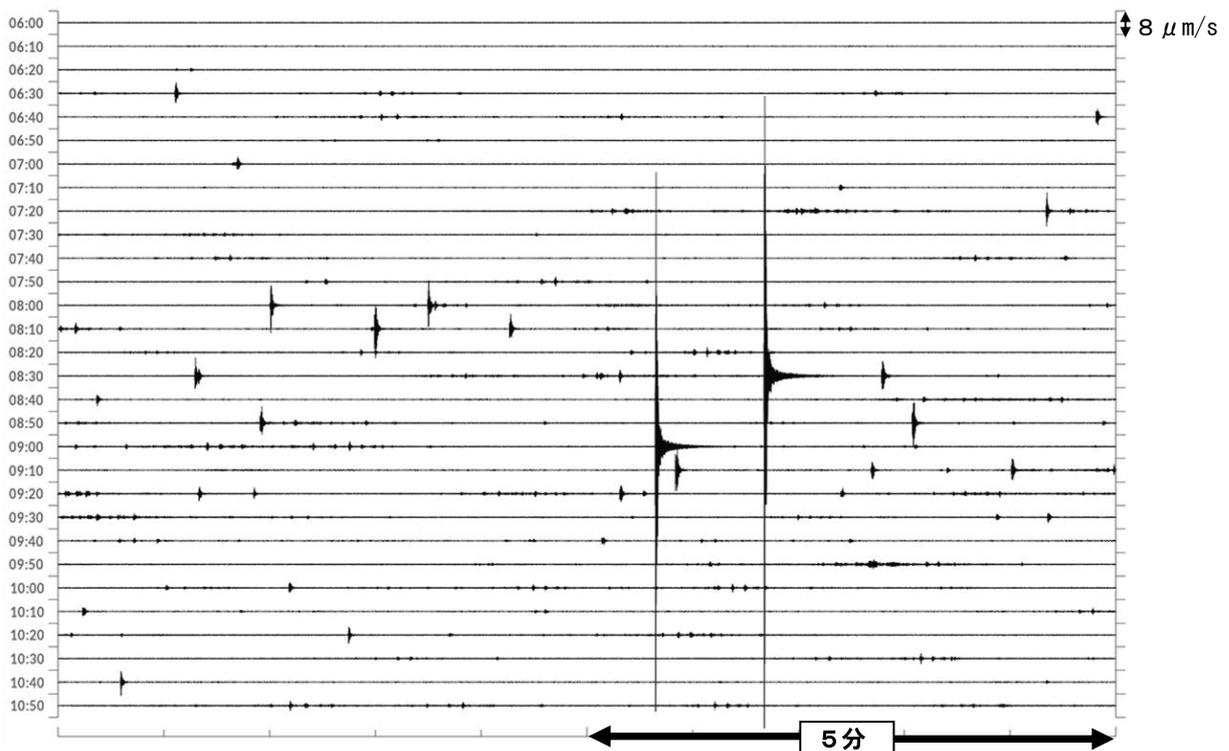


図1 八甲田山 地震回数 (2013年6月～2019年10月7日14時)

- ・地震の計数基準観測点の変更は次のとおりです。変更に伴い検知力が向上しています。
計数開始 2013年6月5日～ 青森県沖揚平観測点
注1) 2019年1月1日～ 鳥滝沢北観測点
- ・灰色部分は欠測を表しています。



(2019年10月7日06時00分～11時00分)

図2 八甲田山 地震の発生状況 (鳥滝沢北観測点 上下動)

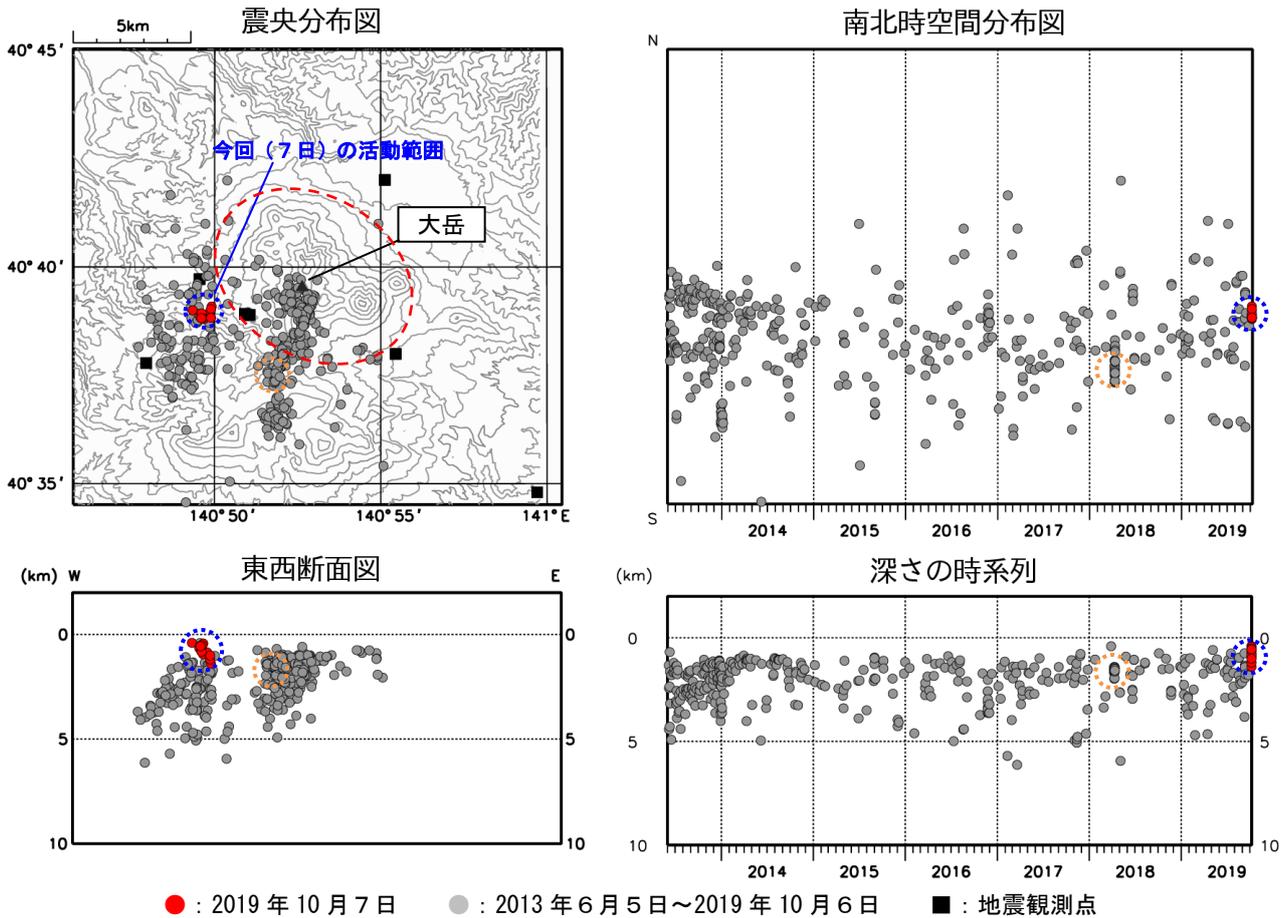


図3 八甲田山 地震活動 (2013年6月～2019年10月7日09時)

- ・ 今回の活動範囲は、大岳山頂の西約4km、深さ約1km付近（青破線）と推定されます。
- ・ 八甲田山では、これまでも周辺で一時的な地震の増加がみられており、2018年4月10日には大岳山頂の南約4km付近（橙破線）を震源とする地震を22回観測しましたが、地震活動以外に火山活動の活発化は認められませんでした。
- ・ 赤破線内が噴火警戒レベル判定基準で対象とする火山性地震の概ねの領域（北八甲田山体）を示します。

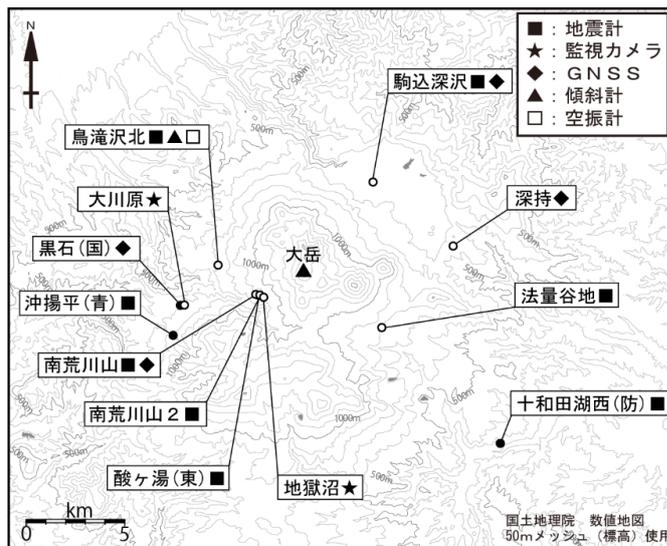


図4 八甲田山 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国) : 国土地理院 (東) : 東北大学 (防) : 防災科学技術研究所
(青) : 青森県